

2013年1月7日

イビデン株式会社 竹中社長の年頭所感

2013年1月7日午前8時より、各事業場に全役員が出向き、社員を前に竹中社長が年頭の挨拶を行いました。また、テレビ会議システムを利用し、海外拠点(フィリピン、北京、マレーシア、フランス、ハンガリー)との新年互礼会も執り行いました。要旨は以下の通りです。

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年の世界経済は欧州の経済危機、そして中国などの新興国の減速で景気は低迷しました。また国内においては、尖閣や竹島問題が発生するなど波乱の一年となりました。しかし、年末の政権交代後、円安株高傾向が進み、久々に明るさが見えかけた年末年始であったと思います。

当社にとって2012年は、創立100周年という節目の年でした。スマートフォンやタブレットPCなどの伸びる市場に注力し、グローバル競争力を高め、次の100年に向けて安定的に売上利益を伸ばせる会社にするという目標に向かって取り組んできました。遺憾ながら、これら構造改革は道半ばにあり、当社業績は厳しい状況のままにありますが、各職場レベルまでロス改善という意識が浸透し始めたことは成果と捉えています。

今年も世界の経済環境は厳しく、グローバルな企業間競争は激化していくことが予測されます。これに勝ち残るためには、構造改革のスピードを上げ、確実に仕上げて行くことが必要です。全グループ社員が現在の危機感を共有しなければなりません。そして、徹底的に現場に入り込み、改善を実践する必要があります。

2012年度の残り3ヶ月で、改善をやり遂げ、何としてもこの苦境から脱したいと思います。そして現場力を高めることによって、中長期的に品質・納期・コスト面でダントツの競争力を持つ会社に仕上げていきます。

新たな100年に向けて、社員全員が健康で ともに進んでくれることを期待します。

以上